

平成27年度第2回「富県宮城推進会議」幹事会 会議録概要

日 時 平成28年3月25日（金）15:00～16:30

場 所 宮城県行政庁舎4F特別会議室

出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

1 開会

幹事長挨拶

※以降は、会則第6の規定により幹事長が議長となり議事を進行。

2 報告

事務局より資料1～5に基づき、「宮城県地方創生総合戦略」について報告。「平成28年度宮城県予算の概要」、「平成28年度みやぎ発展税活用方針」、「第4回富県宮城グランプリの結果」、「宮城県中小企業・小規模事業者振興基本計画」について報告。

3 意見交換

宮城よろず支援拠点 田中コーディネーターからよろず支援拠点の事業概要と相談事例の紹介の後、幹事で中小企業支援について意見交換。

【意見交換 要旨】

- 我々が目指さなければいけないのは「富県」であり、支援事例の中からコーディネーターが目利きをして、各業種・業態のフロントランナーになる可能性のある企業を拾い上げ、自分たちが持っている特徴的な支援スキームを使って手助けをする必要がある。それを実現するためには、連携をするための場や機会が必要で、支援機関同士の横の連携で情報交換ができれば、企業にとってもステップ・バイ・ステップで上がって行けるのではないかと。
- 震災後でも、後ろ向きの話ばかりではなくて、攻めの経営に転じている、または、がんばって伸ばしていこうとしている企業もたくさんある。その様な場ができれば、是非参加して連携させていただきたい。語弊があるかもしれないが、支援機関によって、得意とする支援対象があり、小規模・零細の企業または中小企業という役割分担があると感じている。
- 中小企業の支援は本当に幅広くて、隅々まで行き渡っていないのではないかと漠然とした不安があるので、連携の話は強力に進めていきたい。さらに、市町村まで連携し、なるべく現場に近い行政や支援機関の職員が企業の悩みを拾うことで、もっと重層的な支援に繋がればと思う。
- 例えば自衛隊においては、大震災のような非常に難しい行動をするとき、陸海空が入ったコーディネート・センターを組織し、様々な情報を持ち寄り、その中から次の行動を調整していく。そうすると、作戦目的に対して何をしなければならないかが明らかになり、努力の

集中ができる。今は様々な中小企業支援機関があるが、それぞれが思い思いに動いている。宮城県或いは東北でまとまった力を発揮していくためには、コーディネート・センターが必要になるので、その様な機能を持たせた組織を考えてみてはいかがか。

- 販路開拓支援について、関係機関の協力を頂きながら3年間事業を実施してきたが、その間に、販路開拓支援をされている各支援機関からもご協力を頂くことで更に力を発揮できるようになった。このようなネットワークによって、現在の実績を上げられているので、先程のご提案は、非常に重要であると感じる。
- 横の連携のためにネットワークを作ることも、一理ある。しかし、ワンストップサービスで全てに対応できれば良いが、個人的な経験から、なかなか困難だと感じる。現場では商工会が企業との結びつきを強めており、かなり好評なようだ。そういった状況で、新たな組織づくりに傾注するよりは、現在やっていることに力を注ぐのも一つの方向性ではないか。各組織がヨコからタテからナナメから絡まりながら支援をして、末端の企業の動機付けを行う事の方が、スピード感のある取組になるのではないかと考える。
- ネットワーク強化やチーム力を発揮するという連携については、大変重要だと考えている。我々も、中小企業に声が届いているかは、いつも気にしている。我々は知っているだろうと思っても、中小企業の方は知らないということも多くある。その様なことがないように取り組みたいが、一機関ではできないこともあるので、ここにおられる関係機関とも垣根を取り払って連携しなければならない。それが、中小企業の支援に繋がる面もあるので、もう一度自らを振り返りながら取り組んでいきたい。

4 その他

事務局より、来年度の会議の開催時期等について提案

【以上】